



バリアフリー推進レポート

～安田女子大学コラボ企画～

大学生がバリアフリーについて当事者目線から学び・考える

中国運輸局では、共生社会実現のため、「障害の社会モデル※1」、「心のバリアフリー※2」の啓発とその理解を深めることを目的として、学生や、社会人を対象としたバリアフリー教室・各種啓発活動を継続的に実施しています。

このたび、昨年に引き続き、安田女子大学と連携・協働し、広島交通(株)に協力いただき、大学生向けのバリアフリー教室を開催しました。

参加した学生のみなさんには車椅子利用者や妊婦といった移動制約者の方々の模擬体験を行っていただき、その体験を踏まえて「障害の社会モデル」について深くディスカッションし、「共生社会」の実現に向けてどう向き合っていくのか、自ら何ができるのかを考えてもらいました。

※ 1 障害の社会モデル…障害は個人の心身機能の社会的障壁の相互作用によって創り出されているものであり、

社会的障壁を取り除くのは社会の責任である、とする考え方。

※ 2 心のバリアフリー…様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合うことです。

バリアフリー教室は令和2年のバリアフリー法改正に伴い「教育啓発特定事業」に位置付けられ、取組を強化しています。



【開催概要】

- 日 時：令和7年10月2日（木）13:00～15:40
- 場 所：安田女子大学
- 共 催：国土交通省 中国運輸局・安田女子大学
- 協 力：広島交通株式会社
- 参加者：安田女子大学 現代ビジネス学部 公共経営学科 1年生 47名
- 内 容：
 - (1) バスを用いての体験（バスのバリアフリー化についての説明・妊婦子連れ体験）
 - (2) 車椅子体験（段差・スロープ等）
 - (3) グループディスカッション



バスのバリアフリー化の説明

実際の路線バスを使用して、スロープ板や車椅子スペース、車椅子利用者の乗降方法など、バスのバリアフリー化についての説明を受けました。

妊婦体験セットを装着し、バスの乗降をすることで妊婦の方が日常的に感じていることを、体験しました。



妊婦体験



子連れ体験

重りの入ったぬいぐるみを抱え、ベビーカーを置んでバスの乗降をしてもらい、子育て中の移動を模擬体験しました。

車椅子を使い、小さな段差を乗り越えることや坂道で移動の操作をすることが困難なことを体験しました。



車椅子体験



ディスカッション

障害当事者と障害を持たない人がお互いを理解するために「合理的配慮」をテーマに、様々な人が社会で共生するるために必要なことを話し合いました。

車椅子利用者、妊婦・子連れ、高齢者、聴覚障害者、視覚障害者のそれぞれの立場で「バスで移動し映画を観る場合」というテーマで、「障害の社会モデル」に触れ、困難なことや解決方法などを話し合いました。



合理的配慮



合理的配慮とは

障害のある人が困っているときに、その人に合ったやり方で困りごとを取り除くために、周りの人や社会などがすべき無理のない配慮の取組をいいます。

学生の皆さんの感想

体験

- ・車椅子の怖さや、妊婦さんの大変さが少し理解できた。理解を進めるために自分で体験するのが一番だと思った。
- ・妊婦さんや子連れの方、車椅子の方の大変さや苦労がよく理解できた。私が想像している以上に大変なことが多くて驚いた。
- ・実際に体験できて、妊婦になった時や子供が生まれたときの想像をすることができた。

ディスカッション

- ・合理的配慮が義務であるなど初めて知ったので、とてもいい機会となりました。
- ・合理的配慮という概念を知らず、店舗の善意だと思っていたので、もっと障害者の権利について知ることが必要だと分かった。
- ・障害を持つ人が普通に生活する人と同じように過ごせるようにするためには、合理的配慮についてSNSで啓発することで理解が深まると思います。

